

支部便り

中国四国支部第16回支部講演大会の開催報告

Report on the 16th Annual Meeting of Chugoku Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

日野 実

Makoto HINO

2024年10月19日（土）に、中国四国支部第16回支部講演大会が広島県東広島市の広島大学工学部にて開催された。本講演大会は、軽金属に携わる中国四国地区の支部会員が一堂に会し、各々の研究について活発な議論を行い、交流の場を広げるための会である。学術交流だけではなく、研究者の教育・研究意欲の増進ならびに若手の育成を目的とし、2009年に愛媛大学名誉教授の仲井 元支部長が発案され、第1回目が愛媛大学で開催されてから今年で16回目を迎えた。コロナウイルス感染症も落ち着き、昨年度に引き続き対面で開催し、講演大会終了後には懇親会も開催された。

本講演大会への参加者は50名で、コロナ禍以前の対面で行った大会での参加者と同じ規模まで回復した。講演件数は学生の発表が27件、社会人の発表が2件の計29件で、講演件数もコロナ禍以前とほぼ同じであった。講演大会開催に先立ち、支部長より挨拶が行われた。講演大会は2会場で実施され、初めて学会発表を経験する学生が多く見られたのも本講演大会の特徴のひとつで、質疑応答ではしどろもどろになりながらも一生懸命答えようとしている学生も見られ、大変よい機会になったのではと感じられた。

本講演大会では優秀な研究発表に対する表彰制度が設けられており、学生・院生には“優秀講演賞”が、社会人には“研究・開発奨励賞”が授与されている。各発表に対して3名の審査員が評価し、厳正な審査の結果、今年度の優秀講演賞には以下の8件が選考された。

「機械学習を用いたアルミニウム合金析出相の自動検出」

広島大学 中山 翔生

「Al-Si-Cu系アルミニウム合金中に含まれる不純物元素Feの除去技術に関する研究」

岡山大学 池田 智博

「Ti-10Mo-7Al合金における等温 α '相を経由した α 相の析出」

岡山大学 野島 康平

「走査型電子顕微鏡による熱処理型アルミニウム合金の組織評価」

広島大学 森本 悠太

「高強度・高制振性を有するマグネシウム合金と鉄鋼との複合材料の開発と基礎的研究」

広島大学 島田 直季

「無電解Ni-Pめっきによる7075-T6アルミニウム合金の水素脆性と予亀裂の観察」

広島工業大学 小田原 圭汰

「Ti-17Nb-3Al形状記憶合金の昇温に伴う吸熱反応における結晶構造変化」

愛媛大学 中江 友哉

「HEA粒子強化したアルミニウム基複合材料の押出し成形」

鳥取大学 内海 雄登

また、研究・開発奨励賞には
「浸炭処理したTiC-Ti複合材料の摩耗特性」

鳥取県産業技術センター

塚根 亮

広島大学 松木 一弘、杉尾 健次郎、崔 龍範

鳥取県産業技術センター

玉井 博康

が選考された。

講演終了後に懇親会が開催され、本会の副会長である広島大学 佐々木先生より挨拶ならびに乾杯のご発声を頂戴した。懇親会には47名が参加し、大変盛況であった（図1）。また、懇親会のなかで優秀講演賞ならびに研究・開発奨励賞受賞者の発表があり、受賞者全員から受賞の喜びのスピーチを頂いた。皆様の受賞をお祝いするとともに今後のご活躍をお祈り申し上げる。懇親会の最後には受賞者の集合写真（図2）を撮影し、講演大会が無事に終了した。なお、来年度は香川大学での開催を予定している。

最後に、今回の講演大会をお世話いただいた広島大学の松木先生、杉尾先生をはじめ、協力いただいた学生に心より感謝申し上げます。



図1 懇親会の様子



図2 受賞者一同